

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：令和2年1月6日

事業所名：児童発達支援事業所・放課後デイサービスぴーす浜田

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 |
|----------|--|---|---|---|
| 環境・体制整備 | 1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか | スペースは十分に確保している。 | はい 9 わからない 1 広すぎないのでスタッフの方にしっかり見て貰える | 現状通り安全なスペースを維持していく。 |
| | 2 職員の配置数や専門性は適切であるか | 人員基準を遵守し、有資格者も人員基準以上に配置している。 | はい 6 どちらともいえない 1 わからない 3 | 必要な人員配置を引き続き維持していく。 |
| | 3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備 | 室内はバリアフリーで整備している。 ワンフロアで見渡せる環境である。 | はい 7 わからない 3 | 引き続き現状を維持し、さらに最適な環境設備を考慮していく。 |
| | 4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保 | 清潔には常に心掛けており玩具や床等の消毒は徹底している。 | はい 8 わからない 2 | 引き続き、清掃、整理整頓に努め、清潔な環境を保っていく。 |
| 業務改善 | 1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画 | 支援内容や業務については職員間で常に意見交換やミーティングを行っている。 | | 職員間で連携を深め、日々の振り返りとともに、より高められるように取り組んでいく。 |
| | 2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施 | 第三者による評価は受けていない。 | | 今のところ第三者評価は考えていないが、質の良いサービスの提供と向上は常に図っていく。 |
| | 3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保 | 事業所内で研修を実施しスキルアップを図っている。 | | 今後も研修の機会を設け、職員一人一人の意識向上を図っていく。 |
| 適切な支援の提供 | 1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成 | 6か月毎にアセスメントを行い、ニーズや課題を会議において職員全員で話し合い計画を作成している。 | はい 10 ・子ども二人共成長遅く母一人で子供みるのは大変なので助かる。 ・家ではできない感覚遊びもしてくれる。 ・配布されたプリントを見るとしっかり教えてくれることが伝わる。 | 保護者との信頼関係を深め、きめ細かいアセスメント等、質的向上に努める。 |
| | 2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成 | 一人一人の特性や状況に応じて、利用者にあった個別活動と集団活動を組み合わせ計画を作成している。 | | 特性を踏まえた個々の課題、社会性などの集団での課題を組み合わせ、個別支援計画を作成する。 |
| | 3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載 | 個別支援計画に具体的な支援内容を記載し、保護者の同意を得ている。 | | スモールステップで出来る事を増やしていき目標へと取り組んでもらう。課題、支援目標、支援内容は、簡潔明瞭にする。 |

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 |
|--|--|--|---|--|
| 適切な支援の提供(続き) | 4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施 | 支援計画の内容を職員全員が共通認識し、計画に沿った支援を実施している。 | はい 10 | 計画に沿った支援を実施する。支援経過を記録し、6か月に1度職員全員でモニタリングを実施する。 |
| | 5 チーム全体での活動プログラムの立案 | 職員会議を通じて、個別と集団でのプログラムを立案している。 | はい 9 どちらともいえない 1 家ではいつも同じ遊びになってしまうけど工夫してくれる。 ・子ども二人共成長遅く母一人で子供みるのは大変なので助かる。 ・家ではできない感覚遊びもしてくれる。 ・配布されたプリントを見るとしっかり教えてくれることが伝わる。 | 目標を明確にしたプログラム作成をしていく。 |
| | 6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援 | お出かけや、季節の行事、イベント等を組み入れ休日、長期休暇の計画としている。 | | 子ども達が充実した時間を過ごしていけるよう支援していく。 |
| | 7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施 | 固定化しないように過去を振り返りながら職員全員で話し合い検討している。 | | プログラムは、必要に応じてその都度見直し、話し合いながら改善、工夫していく。 |
| | 8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底 | 当日の職員の役割は、毎朝確認している。行事やイベントなど特別な日は、事前にミーティングで話し合い前日には、役割の確認を行う。 | | 現状を維持しながら、更なる連携や共有ができるような仕組みを検討していく。 |
| | 9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化 | 当日または翌日朝までには職員間で振り返り、反省点を話し合い情報を共有を行っている。 | | 報連相を徹底し、小さい事案でも見過ごさず職員間で共有する体制を作っていく。 |
| | 10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施 | 毎日担当を決め個々の支援経過記録表に記録し記入者以外の職員も記入内容を確認している。 | | 現状を維持していく。 |
| 11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し | 6か月に1度モニタリングを実施している。モニタリング時に職員同士で意見交換し、計画の見直し、継続等を話し合っている。 | | 職員全員でモニタリングを行い、意見交換をし、目標の達成度や支援方法を話し合っていく。 | |

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 | |
|----------|--------|--|---|--------------------|---|
| 関係機関との連携 | 1 | 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画 | 児童発達管理責任者が出席している。 | | 現状は児童発達管理責任者が出席しているが、職員の誰でも対応できるよう、子ども達の日々の様子を記録し情報を共有していく。 |
| | 2 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施 | 対象となる方のご利用はありません。 | | |
| | 3 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備 | 対象となる方のご利用はありません。 | | |
| | 4 | 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有 | 共有できていると言えるほどの情報交換はない。 送迎時に見聞きしたことや気になる点を確認するにとどまっている。 | | 相談支援事業所と連携し、幼稚園や学校での様子や支援内容を共有していきたい。 |
| | 5 | 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供 | 情報提供の依頼があれば対応するが、現在のところ依頼はない。 | | 要望があれば実施していく。 |
| | 6 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進 | 専門機関での研修は時間的な余裕がなく受講できていない。 | | 受講の機会があれば積極的に参加するようにしていく。 |
| | 7 | 児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供 | 交流や活動の共有はしていない。 | はい1 いいえ 1 わからない 8 | 保護者からのご要望や他所からのご希望があれば検討する。 |
| | 8 | 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営 | 地域住民の方を行事へご招待する等の交流はしていない。 | | 公園で子ども同士が一緒に遊ぶことはあるが、今後は地域住民の方を行事にご招待する等の交流も検討していく。 |

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 |
|---------------|--|--|---|--|
| 保護者への説明責・連携支援 | 1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明 | 契約時、個別支援計画書交付時に詳しく説明している。 | はい 8 どちらともいえない 1 わからない 1 | わかりやすい説明を心がける。ご質問には随時対応する。 |
| | 2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明 | 個別支援計画の目標及び支援内容を保護者に説明している。 | はい 9 わからない 1 | 引き続き、わかりやすく丁寧に説明する。 |
| | 3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施 | ペアレント・トレーニングは行っていない。保護者から相談を受けた場合は、その都度対応している。 | はい 5 いいえ 1 わからない 3 どちらともいえない 1 | 子どもへの接し方、悩みや不安がある場合は、一緒に考え支援していきたい。 |
| | 4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底 | 連絡帳や送迎時にコミュニケーションを取り、共通理解を深めている。 | はい 7 どちらともいえない 1 わからない 1 無回答1 伝え合ってるけどお互い理解し合えてるかわからない。 | 日々の様子は連絡帳でお伝えし、気になることは直接お伝えする。保護者とのコミュニケーションを深め、情報を共有する。 |
| | 5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施 | 日常生活面に関する相談を受けることが多く、随時対応している。 | はい 7 どちらともいえない 1 いいえ1 わからない | 現状通り対応していくが、保護者と職員のコミュニケーションを密にし、相談しやすい関係性を気づいていくよう心がける。 |
| | 6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援 | 現在のところ実施していない。 | どちらともいえない 2 いいえ 4 わからない4 | 行事への保護者の参加を呼び掛け、保護者同士が交流できる機会を設けることを検討していく。 |
| | 7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応 | 窓口担当者・解決責任者を設置し、重要事項説明書に明示し、契約時に説明している。 | はい 8 わからない 1 無回答 1 疑問に思う事や心配事があって言うとすぐ対処してもらえるから助かる。 | 苦情には迅速に解決まで誠意をもって対応する。内容を検証し再発防止に努める。 |
| | 8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮 | 絵カード、マカトン法などそれぞれの特性に合わせてわかりやすいツールを用いている。保護者には、連絡帳、通信、フェイスブック等で活動内容を発信している。 | はい 7 どちらともいえない 1 わからない 2 | 引き続き特性に配慮した伝達ができるよう努めていく。 |
| | 9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信 | 毎月、通信を発行し、活動の様子や行事予定等を知らせている。行事の際は、行先、持ち物を書いた手紙を別途配布している。 | はい 9 わからない 1 | 現状を維持していく。 |
| | 10 個人情報の取扱いに対する十分な対応 | 個人情報の保護に努め、取扱いには十分配慮している。 | はい 6 わからない4 | 今後も取扱いに注意し、個人情報の保護に努める。 |

| 区分 | チェック項目 | 現状評価(実施状況・工夫点等) | 保護者の評価 | 保護者の評価を踏まえた改善目標・内容 |
|---------|---|--|--|---|
| 非常時等の対応 | 1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底 | 緊急時対応、防犯、感染症対応マニュアルは整備しているが、保護者への周知には至っていない。 | はい 4 いいえ 2 わからない 4 | 面談時にマニュアルを整備していることを保護者に伝えたり、プリントを配る等、保護者に伝える方法を考えていく。 |
| | 2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施 | 集団活動の中で話や教育は行っているが定期的にはできていない。 | はい4 どちらともいえない1 いいえ2 わからない3 ・その日の出来事を読むとしっかり先生のいう事を聞いたりお友達の真似をして訓練している様子が思い浮かぶ。 | 定期的に避難訓練を実施していく。 |
| | 3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応 | 障害者虐待防止マニュアルに基づき事業所内で研修を行っている。 | | 今後も研修の機会を設け、意識向上に努める。 |
| | 4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載 | 身体拘束は行っていない。 | | 身体拘束は行わない。 |
| | 5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応 | 食育やおやつを提供しているので、利用開始時にアレルギーの有無をお聞きしている。 | | 保護者からの聞き取りを今後も継続していく。 |
| | 6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底 | ヒヤリハット事例が起こった時は、速やかに報告書を作成し、職員全員で回覧し、共有している。 | | 事例検証をし、職員間で反省点や改善点を話し合っていく。 |